

総論

【授業の目的】

総合科学部が目指す教育の特色は、①幅広い視野に立って社会の課題を把握する理解力、②情報分析やコミュニケーションなど実践的な技能、③課題解決のため主体的に行動しようとする態度の3つを養うことにある。この授業では、こうした能力の基礎を形成することを目的に、プロジェクト型学習や課題解決型学習に取り組む。大学での学びに必要なスキルを習得するとともに、人間力の育成とコミュニケーション能力の向上を図る。1年次の学生が自律的・能動的な学修を促進するためのプログラム「SIH道場」の一環として開講され、15名までの少人数クラスで実施する。

【授業の概要】

課題の発見や解決のためには、単に既存の知識から正解を導き出すだけでなく、自律的に考えて問題点を提示する必要がある。また、他者との協働を通じ調査・考察した内容を発表する方法も習得すべきである。この授業はグループ学習を中心に進められ、プレゼンテーションなど汎用的技能の養成や、学修の振り返りなどアクティブラーニングの要素を取り入れた内容となっている。それぞれのクラスで取り上げるテーマは、担当教員の専門研究分野に近い場合もあれば、一般的なスキルを重視した内容の場合もある。また、クラスによっては、決められた授業時間外や休暇中に学外で体験学習をおこなうことがある。

【キーワード】

アクティブラーニング、プロジェクト型学習、コミュニケーション能力、協働力、プレゼンテーション

【到達目標】

クラスによって異なるが、以下のような技能・能力の育成を大きな目標とする。1.コミュニケーション能力(協働力) 2.プレゼンテーション能力 3.レポート作成能力 4.文献調査・情報収集能力 各クラスの目標については、担当者ごとに示されたシラバスを参照すること。

【授業の計画】

クラスによって異なるが、以下の要素から複数ものの組み合わせとなる。1.ディスカッション 2.プレゼンテーション 3.レポート作成 4.体験学習 5.講読 6.その他

【受講者へのメッセージ】

どのクラスに配属されるかは、「総合科学入門講座」の授業中に希望調査をおこない、抽選によっ

て決定する。受講するクラスの担当教員は、副担任として学生生活全般の相談にも対応してくれる。ただし、どのクラスを受講するかは2年次以降のコース配属に影響しない。

※以下、担当者の五十音順

上原クラス

【授業の目的】

本授業では、基本的人権に関する裁判例を素材として、今後の授業を履修するうえで基礎となる、資料を読み解く力、論理的思考力、報告・討論する力、論理的文章を書く力等を養うことを目的とします。

【授業の概要】

はじめの2～5回目は、ウォーム・アップといっ て裁判例に関係ないテーマで自由に討論していきます。6回目以降、報告者をきめ、報告者はテキストを読んで裁判例に関するレジュメを作成して報告します。報告者以外の参加者は事前にテキストを読んだうえで報告内容について討論・検討していきます。後日、報告者は、報告及び討論・検討内容についてレポートを提出します。都合がつけば、裁判の傍聴なども行いたいと思います。

【キーワード】

基本的人権、自由、自己決定権

【到達目標】

1 論理的思考力の養成、2 報告・討論する力の養成、3 論理的文章を書く能力の養成

【授業の計画】

- 1 ガイダンス
- 2～5 自由テーマ討論
- 6 髪型の自由
- 7 バイクに乗る自由
- 8 再婚の自由
- 9 プライバシー権
- 10 歴史的文化的環境権
- 11 取材の自由
- 12 アクセス権
- 13 自己情報開示請求権
- 14 平等権
- 15 生存権
- 16 総括授業ないし裁判の傍聴(未定)

【教科書】

棟居快行他『基本的人権の事件簿：憲法の世界へ』有斐閣、2015年

【成績評価方法・基準】

課題毎に課すレポート(80%)と出席や授業への取り組みなどの平常点(20%)により評価します。

【受講者へのメッセージ】

しっかり予習をして、授業中は積極的に発言するようにしてください。新聞等を読んで(ネットだけではだめ)、社会の中で起こっていることに関心をもってください。

【自主学習のアドバイス】

テキストを読んでテキストに書かれているポイントをまとめる。根拠を明らかにしたうえで自分の考えを明確にする。疑問に思った点を図書資料、インターネットを活用して調べる。授業中、他の人の意見をメモしておく。他の人に対する自分の意見も考える。授業で討論して、教員の説明を聞いてもわからない点をさらに自分で調べてみる。

衣川クラス

【授業の目的】

〈大学で学ぶための力〉を高めることを目的とします。学ぶための力とは、具体的には読むこと、書くこと、調べること、考えること、意見を述べること、意見を聞くこと、批判すること…など、数多くあります。それらについて、自分で必要だと自覚したうえで、大学での学びに向きあえるようになることを目指します。

【授業の概要】

読むこと、書くこと…など多様な事柄を身につけるために、様々な素材を使って様々な問題を考える予定です。その際、全体を通した大きなテーマとして「歴史」を設定しておきます。あらゆるモノ・コト・ヒトに歴史がありますが、それぞれの歴史(過去)は、普通は目の前には無いため、普段の生活でそれを意識することもほとんどないことが多いでしょう。ですが、歴史を踏まえて見直してみると、今までとはちょっと違って物事が見えてくることもあります。〈歴史(過去)を知ったくらいで見方が変わるか〉という考え方もあるかと思いますが、変わるかどうかも含めて、いろいろと考えてみましょう。

【キーワード】

歴史

【到達目標】

日本語の論理的な文章を読み、書き、理解すること。自ら考える姿勢を身につけること。そのため何をするべきか、自覚できるようになること。

【授業の計画】

1.ガイダンス・自己紹介

- 2.グループ報告1・テーマ設定
- 3.グループ報告2・調査
- 4.グループ報告3・発表
- 5.映画をみる1
- 6.映画をみる2
- 7.小説を読む
- 8.小説を読む
- 9.個人報告1・テーマ設定
- 10.個人報告2・調査
- 11.個人報告3・発表
- 12.グループ報告4・テーマ設定
- 13.グループ報告5・調査
- 14.グループ報告6・調査
- 15.グループ報告7・発表
- 16.総括授業・まとめ

【教科書・参考書に関する補足情報】

適宜配布します。

【成績評価方法・基準】

授業中の課題・発表、授業への取り組み、出席、レポートなどを総合的に評価します。

【受講者へのメッセージ】

授業計画はあくまで大まかな予定であり、受講者の意向によって変わる場合もあります。

【自主学習(予習・復習)のアドバイス】

何でもいいので、図書館で歴史関係の本を借りて読んでみましょう。

熊坂・佐藤(裕)・山口クラス

【授業の目的】

- ①テーマに関連する文献を検索する。
- ②役割を分担して調査研究を行う。
- ③建設的なディスカッションを行い、合意形成を行う。
- ④説得力のあるプレゼンテーションを行う。
- ⑤他のチームのプレゼンテーションを適切に評価する。

【授業の概要】

熊坂・佐藤・山口クラス合同で行う(定員45名)。一つのテーマについて、多方面から調査研究し、妥当な見解を作り上げる技能を身につける。今年度は「障害について考える」をテーマとする。夏休み前に関連する文献を提示するので、夏休み中に読んでくること。後期の最初の授業では、関連する内容を講義する。その後、小グループに分かれて調査研究を行い、学期末に発表会を行う。発表会では、「評価シート」にもとづいて他のチームの発表を相互に評価する。

【キーワード】

文章表現力、共同研究、プレゼンテーション

【到達目標】

- ①文章表現力を身につける。
- ②共同して調査研究する力を身につける。
- ③プレゼンテーションの技能を身につける。

【授業の計画】

- ①講義「障害とは何か（1）心理学的観点から」（佐藤）+質疑応答
- ②講義「障害とは何か（2）倫理的観点から」（熊坂）+質疑応答
- ③講義のまとめとプレゼンテーションの評価基準、文献検索法等（山口）
- ④～⑭：グループごとの共同研究
- ⑮・⑯：発表会

【教科書】

山口裕之『コピペと言われないレポートの書き方教室：3つのステップ：コピペから正しい引用へ』新曜社、2013年

【教科書・参考書に関する補足情報】

夏休み前のガイダンス、講義中に適宜提示する。関連する文献を検索する技法を講義するので、自分たちで探すように。

【成績評価方法・基準】

授業への事前準備・グループワークへの積極的な参加・プレゼンテーションの出来栄（「評価シート」にもとづく）によって評価する。

【受講者へのメッセージ】

「考えること」と「他者に伝えること」は、誰もが日常的に行っています。しかしそこに「論理的に」や「わかりやすく」といった修飾語をつけ加えると、誰もが簡単にできることではなくなります。この授業は、そのための技術習得に向けた練習機会です。積極的に臨んでください。（熊坂）

自分の考えや主張を他者に納得・理解させるためには、どのように話を組み立て、どのような資料を準備する必要があるでしょうか？この授業では、調査研究を通して、そのスキルを身につけてもらいます。今年度は障害をテーマとしますので、視覚・聴覚・言語を積極的に活用し授業に臨んでください。（佐藤）

「考えること」も一つの技術です。決まりや作法があります。自分の好きなことだけ自己流でやっても決して「考える力」は身に付きません。この授業では正しく考えるための基礎的な技術を伝授します。技術の習得には反復練習が必要です。苦勞して得た技術だけが、他の人にはマネのしがたい「自分だけの財産」になります。がんばって

ください。（山口）

【自主学习（予習・復習）のアドバイス】

日頃から新聞を読むなどして、社会の出来事についての情報を摂取し、その背景について考えること。

佐藤（健）クラス

【授業の目的】

本ゼミナールの目的は、臨床心理学・健康心理学・社会心理学に関する社会的課題について、（グループで）身の回りから発見し、その解決策をプレゼンテーションし、聞き手と議論することを通して、その理解を深めることである。

【授業の概要】

臨床心理学、健康心理学、社会心理学に関する社会的課題について教員が講義した後、文献調査・実地調査をグループごとに実施し、調査結果を発表し、議論する。

【キーワード】

臨床心理学、健康心理学、社会心理学、調査、プレゼンテーション

【到達目標】

- 1 臨床心理学・健康心理学・社会心理学に関する社会的課題を見つけ出すことができる。
- 2 自らの意見・考えを正しく文章化する能力を身につける。
- 3 プレゼンテーション能力を習得する。

【授業の計画】

- 1 ガイダンス
- 2-3 臨床・健康・社会心理学における社会的課題
- 4-6 文献調査（文献の検索、収集、読解、まとめ方）
- 7-8 文献調査報告（レジュメのまとめ方と発表の仕方に関する議論）
- 9-11 実地調査（学校外における調査）
- 12-13 実地調査発表準備（プレゼンテーションの仕方）
- 14-15 実地調査発表
- 16 まとめ

【教科書・参考書に関する補足情報】

適宜、授業の中で紹介する

【成績評価方法・基準】

授業での発言、プレゼンテーションの成果から総合的に評価する

【受講者へのメッセージ】

臨床心理学、健康心理学、社会心理学に関する

社会的課題を題材にして、文献や実地による調査の仕方、プレゼンテーションや議論の仕方を学ぶ授業です。そのため、通常の開講時間外で実施する場合があります。

趙クラス

【授業の目的】

社会科学を学習するのに必要な物事の考え方を習得することを目指します。

【授業の概要】

この基礎ゼミでは、社会科学に必要な基礎的な思考法や方法論を学びます。グループごとに報告のテーマを決め、毎週該当グループがレジメを作成し報告します。「なぜこのテーマを決めたか」、「なぜこのテーマをおもしろいと感じたか」をプレゼンテーションしてもらいます。残った時間は報告した内容についてディスカッションします。

【キーワード】

社会科学的な思考方法

【到達目標】

物事を感情論ではなく、社会科学的な思考方法で思考すること

【授業の計画】

1. イントロダクション、報告者の順番とテーマを決定する
2. 決めたテーマについてグループで発表し、全員でディスカッションを行う
3. 決めたテーマについてグループで発表し、全員でディスカッションを行う
4. 決めたテーマについてグループで発表し、全員でディスカッションを行う
5. 総括授業を行う

【成績評価方法・基準】

出席、報告内容及び積極性という3点を総合評価する

【受講者へのメッセージ】

皆さんのプレゼンテーション能力と思考能力の成長を期待する

内藤クラス

【授業の目的】

この授業では実際に地域社会に飛び込み、過疎・高齢化や防災・減災などの地域社会が直面している問題の理解や支援を目指したフィールドワークやボランティア活動をおこないます。そして

フィールドワークの成果を社会に発信するスキルを学びます。

【授業の概要】

東日本大震災の経験は、私たちの災害への向き合い方を大きく変えました。たとえば2012年1月に徳島県が発表した、新たな津波被害の予測情報は、県下の地域社会に衝撃を与えています。とくに最大波高20m以上と予測された地域の人びとは、これまでに経験したことの無い災害リスクに対処することを迫られています。

いつ発生するか正確に予測することが困難な自然災害に対処するためには、行政まかせではない住民主体の防災活動が不可欠です。しかしながら、①かつてない超過疎化が進む県内の地域社会では、防災活動の担い手となる青年・壮年層が少ないうえに避難時に介護を要する高齢者が多いことに加えて、②いくつかの地域では、これまでに大規模な津波被害の経験や伝承がありません。こうしたなか、地域社会に生きる人びとは手探りで新たな防災活動に取り組んでいます。

この授業では、県内の集落にて実際にフィールドワークやボランティア活動をおこない、過疎地域の防災や地域おこしの実態についての民族誌(エスノグラフィー)を記述します。そして、その成果を発表するなかで、地域の人びととともに住民主体の防災や地域おこしのあり方について考えます。

【キーワード】

フィールドワーク/防災・地域おこし/ボランティア/民族誌/プレゼンテーション

【到達目標】

フィールドワークを計画・実行する能力の養成(体験・参加型学習、課題解決・探求型学習)
日本語の論理的文章を理解、書く能力の養成
プレゼンテーション能力の養成

【授業の計画】

- イントロダクション
- フィールドワークとは何か?
- フィールドワークの理論と方法
- フィールドワークの倫理と実践
- 調査対象について調べる(グループワーク)
- 調査手法や考え方について調べる(グループワーク)
- 調査計画を立てる(グループワーク)
- 調査計画を発表する(グループワーク)
- フィールドワークの分析
- 第1回調査報告を発表する(グループワーク)
- 第1回調査報告を修正する(グループワーク)

第2回調査報告を発表する（グループワーク）
フィールドワークの発表・社会的応用
第1回・第2回調査報告をまとめる（グループワーク）

調査成果の公開プレゼンテーション
総括授業

【教科書】

小田博志『エスノグラフィー入門：〈現場〉を質的研究する』春秋社、2010年

【参考書】

山下祐介『限界集落の真実：過疎の村は消えるか?』筑摩書房、2012年

スザンナ・M・ホフマン・他編『災害の人類学：カタストロフィと文化』明石書店、2006年

【教科書・参考書に関する補足情報】

教科書はかならず購入してください。

【成績評価方法・基準】

フィールドワークへの参加、ゼミでの積極性、プレゼンテーションの内容から総合的に評価する。

【受講者へのメッセージ】

大学は既に明らかになっている知識を「学ぶ」場所であると同時に、新たな知識を「創る」場所でもあります。実際の地域社会に飛び出し、そこで新たな発見をすることの楽しさを経験してください。

【注意点】

- 1) フィールドワークは授業時間外（休日等）に行います。
- 2) フィールドワークやボランティア活動には、公共交通機関による移動や宿泊を伴うことがあります。旅費・宿泊費は基本的に自己負担です。
- 3) 徳島県の中山間地域で活動するため、自然のリスクがともないます。
- 4) 地域の人びとが真剣に取り組んでいる課題に参加します。
- 5) 遅刻・無断欠席はしないように。

眞弓クラス

【授業の目的】

統計的データの解釈確率論に基づいて考察できる能力を身に着けるといふ課題に取り組む。

【授業の概要】

授業の計画を参照すること。

【キーワード】

確率論 統計データ 次元 階層理論

【到達目標】

統計的データの解釈確率論に基づいて考察でき

る能力を身に着ける。

【授業の計画】

- 第1回 サンプルバイアスについて
- 第2回 確率論の基礎とベルtrandの考察
- 第3回 平均とは何か？
- 第4回 算術平均とミディアム、モード
- 第5回 データに隠された背景
- 第6回 宣伝に利用されるデータの信ぴょう性
- 第7回 次元の問題
- 第8回 一次近似の諸問題
- 第9回 対数関数による近似
- 第10回 ワイアシュトラスの多項式近似の関する諸問題
- 第11回 グラフによる表示の問題点
- 第12回 隠された次元の解釈
- 第13回 統計データの恣意的操作
- 第14回 回帰分析の基礎
- 第15回 回帰分析と確率変数
- 第16回 まとめ

【成績評価方法・基準】

試験はしないが、各回の講義内容について理解しているか質問や発表を通じて個別に評価する。

【受講者へのメッセージ】

論理的な思考を身に着け、演繹できるように頭を鍛えよう。

三浦クラス

【授業の目的】

本授業では、「健康づくり」、「競技力向上」をテーマに、地域での中高齢者の健康づくり支援、ジュニアスリートの競技力向上支援の二つを通じて、指導する力、測定する力、分析する力などを養うことを目的とする。

【授業の概要】

中高齢者の身体機能の特性、中高校生の競技力の現状を理解し、それに対する運動/トレーニングの効果、身体機能の測定方法・分析方法を習得し、実際にフィールドで測定評価、データ分析を行う。さらに、得られた結果を基に課題解決策を模索する。

【キーワード】

健康、スポーツ、身体機能、測定評価

【到達目標】

- 1.健康に関連した身体の機能・構造について理解する
- 2.身体機能を適切な手法で測定・評価できる
- 3.データを基に課題解決策の提案を思考できる

【授業の計画】

- 1 ガイダンス
- 2 「健康」, 「体力」, 「スポーツ」について
- 3 中高齢者の健康づくり事業の紹介
- 4 ジュニアアスリート支援事業の紹介
- 5 中高齢者向け体力測定 I
- 6 中高齢者向け体力評価方法
- 7 体脂肪の測定評価方法
- 8 筋力・筋出力の測定評価方法
- 9 ハイパワーの測定評価方法
- 10 ミドルパワーの測定評価方法
- 11 ローパワーの測定評価方法
- 12 中高齢者の体力測定の実践
- 13 ジュニアアスリートの身体機能測定の実践
- 14 データ解析
- 15 課題対策
- 16 総括

【教科書・参考書に関する補足情報】

教務事務システムを通じて資料等を事前に配布します。

【成績評価方法・基準】

授業への取り組み姿勢(50%), プレゼンテーション(30%), レポート(20%)で総合評価します。

【受講者へのメッセージ】

本授業が学外実習を含むため、通常の開講時間外で実施する場合があります。

吉田クラス

【授業の目的】

地域の未来設計, 社会イノベーションの基礎的事項を実践体験的に学ぶ。その過程を通じて、問題発見と課題解決の方法身につける。シビックプライドの形成, 市民参加の意識を高める。地域の持続に貢献するヤングクリエイターとしての資質を見える化する。

【授業の概要】

徳島大学フューチャーセンターを使い、デザイン思考による「未来設計」の考え方, コミュニティデザイン, プロトタイピング, 協働, 共創, 協業の基礎を学ぶ。実践テーマとして, 米国オレゴン州ポートランドのまちづくりをモデルにした「徳島大学ファーマーズマーケット」をデザインし, 地域の農家や事業者との共創で社会実験してみる。具体的には, 学生ショップ「やおや Yao-Ya」を経営し, 八百屋ごっこビジネスモデルによるローカル野菜の仕入れと販売を体験する。一連の過程を

通じて、問題発見力や課題解決力の基礎, 対話する力, 地頭力, コミュニティへの参加とリーダーシップ, 誇りと自信を高め, なんでも自分事として「やってみる」態度形成, まなび, 地域創生への動機付け, ヤングクリエイター資質への気づき, ポートランドなどとのグローバルコミュニケーションへの意識向上を促す。

【キーワード】

フューチャーセンター, 地域の持続, 未来設計, 社会イノベーション, デザイン思考, 対話, 協働, 観察, 分析, 地頭力, 問題発見, 共感, アクション, ICT リテラシー, コミュニティデザイン, サステイナビリティ, プロトタイピング, 社会実験, 市民参加, シビックプライド, 米国オレゴン州ポートランド, ファーマーズマーケット, プロジェクトマネジメント, ヤングクリエイター。

【到達目標】

- ・デザイン思考による「未来設計」の理念, 知識, 手法の基本を理解し, 地域応用する基礎力の形成
- ・米国オレゴン州ポートランドの街づくりモデルについて調査, 分析, 地域応用する基礎力の形成
- ・徳大ファーマーズマーケットのデザイン, プロトタイピング, 社会実験を実践する基礎力の形成
- ・持続する地域の形成の土台となるシビックプライドの意識, 共感して「やってみる」態度の形成
- ・自らの中に潜む問題発見と課題解決の素地, ヤングクリエイターとしての資質への気づきの支援

【授業の計画】

1. フューチャーセンターへようこそ
2. 未来設計の考え方, スペーステクノロジー
3. ダイアログ (対話) 文化と「場」への接近
4. 社会イノベーションとデザイン思考について
5. ポートランドのまちづくりとファーマーズマーケット
6. 徳島大学ファーマーズマーケットのデザインと実践に向けて
7. 目的達成のチーム形成, 情報共有, グループワークの準備
8. ネット活用のための環境整備と情報リテラシー
9. 問題発見と課題解決へのアプローチ,
10. コミュニティデザインの視点と我が町探索
11. ブレインストーミング, 共感, マッピング
12. 問題提起, アイデア創出, 「自分事」づくり
13. プロトタイピング, 物語りの共有, テスト
14. 地域協働, キャンパスでの社会実験
15. ハーベストとインパクト分析

16. 報告書作成と成果発表

【教科書・参考書に関する補足情報】

授業に関する資料等は電子媒体(PDFファイル、電子書籍、Webサイトコンテンツ)で送信/共有する。

【成績評価方法・基準】

授業中に指示された課題等への対処、インターネットを通じた提出状況、教室ならびにオンライン活動への参加度、最終課題への取り組み度合い、共同場面での貢献度、クラスメイトとの議論/協働/交流、報告書作成への寄与などを総合して判定する。

【受講者へのメッセージ】

スマートメディアによるネットワーク型の授業や演習を行う。そのため、メール、ブログ、ツイッター、facebookなどを利用/演習する。地域連携の協働作業にも参加する。まち、村、中山間地域などへ出かけていき、地域の住民や高齢者などと交流する場合がある。汗を流し、ガハハと笑って、楽しく学習する。

【備考】

作業等の関係から授業の進行はシラバスに記載の順番と一致しない場合がある。ファーマーズマーケットの実践活動のため授業日以外の夜間や休日に地域の人達との打合せや協働作業を行う。

【自主学習(予習・復習)のアドバイス】

クラスメイトと仲良くなり、コミュニケーションを十分にとり、情報交換に努める。その上で、「共感する」「疑問をもつ」「調べる(ネット検索含む)」「観察する」「本を読む」「分析する」「考察する」などを基本にして、事前学習、事後学習することを奨める。

<http://www.tokushima-u.ac.jp/cr/>

葭森クラス

【授業の目的】

大学の学びとは先生から与えられた課題をこなすことではなく、自分で課題を見つけ、それを解決するための方法を身につけることです。この授業は少人数クラスで、身近なところ(徳島)から課題を発見し、それを客観化して、分析、他人にアピールするという事について学ぶ事を目的とする授業です。目標は自己の感性磨きそれを客観的にプレゼンテーション出来るようにすることです。

【授業の概要】

何気なく見ている徳島の街から何かを発見し、その事を調べ発表しようという授業です。つまり、

同じものを見ても注目するところは人によります。それを課題発見能力と言います。課題は課題のままでは意味をなしません。なぜそれが気になるのかを客観的に見て、色々調べてそこからその課題が多くの人に意味があることと訴えかけられたらそれがプランニングや研究という仕事につながって行きます。感性を客観化し人に訴えかけるという学問の基本を身近なところでトレーニングする授業です。

【キーワード】

課題発見 解決 徳島発見 実地調査 資料調査 プレゼンテーション

【到達目標】

自分で発見できたことを人にわかるように説明できるようになることを到達目標に定めます。

【授業の計画】

- 1 ガイダンス
- 2 調査項目と方法についての打合せ
- 3 調査1 徳島新発見
- 4 調査2 徳島新発見<続>
- 5 初回調査報告
- 6 調査報告の検討 何をどこで調べるか?
- 7 文献資料等の調査
- 8 資料調査の報告
- 9 再調査1 新発見の価値を検討
- 10 再調査2
- 11 再調査結果の報告
- 12 再調査結果の検討
- 13 補足調査
- 14 最終報告 プレゼンテーション
- 15 報告の検討と討論
- 16 今後の課題の再確認

【教科書・参考書に関する補足情報】

特に指定はありませんが授業で指示します。

【成績評価方法・基準】

通常の授業の課題と発表、学期末のレポートで評価

【受講者へのメッセージ】

平常の授業での発表や、他の人の発表に対する討論への参加等も加味し、評価を行います。従って、授業には必ず出席し、発表や討論には積極的に参加して下さい。国際センターの日本事情の授業と連携し、時間割枠外で留学生と共同の調査や発表会を行うこともあるので注意して下さい。

【自主学習(予習・復習)のアドバイス】

ゼミですので授業出だされた事前課題をこなし、授業では十分な準備をして報告をすること。